



JTUC-TOKUSHIMA  
**連合徳島**

vol. 247

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35の1  
徳島県労働福祉会館内  
tel. 088 (655) 4105  
fax. 088 (655) 4113  
E-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp  
http://tokushima.jtuc-rengo.jp/

発行:日本労働組合総連合会徳島県連合会  
編集責任者 森本佳広

当面の日程

- 7月4日(金)
  - ・2014年度連合徳島地方委員会(阿波観光ホテル)
- 7月7日(月)
  - ・中小労働対策本部第6回幹事会(連合徳島会議室)
- 7月26日(土)~27日(日)
  - ・「連合の森」親子サマーキャンプ(美馬市木屋平)
- 7月30日(水)
  - ・労働安全衛生センター、中小労働対策本部合同研修会(労働福祉会館)



写真上:河村会長(右)が労働局に要請書を提出  
写真下:労働局に迅速な対応を求める交渉団

就職差別撤廃  
労働局交渉

# 就職差別撤廃求め 人権啓発強化を強く訴え

就職は人生の大きな岐路であり、自己実現や生活の糧を得るといふことから非常に重要なもので、労働者の権利や人権を考えると、でも就職という雇用関係の出発点から考えることが大切である。

しかし、今日も差別につながる応募用紙の書式や面接での質問などがあつとを絶えず、さらに続発する戸籍不正請求事件、あらたに判明した「部落地名総鑑」電子版の存在、差別身元調査が行われるなど深刻な就職差別の実態も明らかになっている。

以上の実態を踏まえ連合徳島、部落解放徳島地方共闘会議は6月18日に就職差別撤廃に向けた労働局交渉を行い12人が参加した。交渉では、労働局に対し

冒頭、古賀連合本部会長は「2014春闘は昨年を上回る組合が回答を引き出している。これまでの成果を正規・非正規、組織・未組織にかかわらず広く普及させ、全ての労働者の所得向上を実現していく必要がある。これから国会終盤にかけての期間は、STOP T H E 格差社会、暮らしの底上げ実現キャンペーンの成果が問われる正念場。連合本部・地方連合会・構成組織一体となった運動を展開していこう」とあいさつ。

代表者会議では、連合本部から①「1000万連合」実現に向けた組織拡大、②

女性委員会は、連合徳島女性委員会は、女性の権利拡大向上、男女人権啓発の重要性と企業トップの人権研修実施と充実、就職面接後の聞き取り調査の実施などを求めるとともに、とりわけ企業トップの人権研修については、通年的な取り組みにとどまることなく、就職差別強固月間の設定や啓発活動強化に向けて具体的な対策を講じるよう強く要請した。

最後に河村連合徳島会長が、「昨年度、徳島県内で2件の企業が就職差別に抵触している内容の面接が行っている。このようなことが発生しないように、違反企業への指導徹底など迅速な対応を求める」と締めくくり終了した。

# 1000万連合実現に向けて

## —連合四国ブロック代表者会議—



記者会見を行う、左から河村連合徳島会長、古賀連合本部会長、神津連合本部事務局長

連合本部は6月12日、徳島市のワシントンホテルで連合四国ブロック代表者会議を開き、四国から20人(連合徳島から6人)が参加した。

古賀会長  
記者会見

# 労働時間規制緩和に警笛

2014春闘中間まとめ、総括などが提起され、当面労働者保護ルール改悪の動きを阻止する取り組み強化を各地方連合会と意思統一した。

なお、代表者会議前段には古賀連合本部会長が徳島県庁で記者会見を行い、労働時間規制緩和への反対を訴えたうえで、「残業ゼロより過労死ゼロをめざすべき」と警笛を鳴らした。また、6月13日にはオル



6月13~14日には、オルガナイザー研修なども開催され、四国ブロックから80人が参加

女性委員会  
労働局交渉

# 女性の権利拡大めざし 連合徳島との連携も要請

が共に仕事と家事・育児・介護を両立できる環境整備、処遇改善を図るため6月9日、労働局で雇用均等室長要請行動を行い、女性委員会から下委員長をはじめ役員8人が参加し、労働局からは均等室長など5人が出席した。

要請行動では、女性が働き続けられる環境整備、間接差別禁止、同性間のセクシュアル・ハラスメント(以下、セクハラ)防止に向けた取り組みなどを要請するとともに、女性のための全国一斉労働相談の協力を保育現場・看護現場からの生の声も伝え、セクハラが発生した場合の均等室の対応などを強く要請した。

最後に今後、連合徳島と労働局が連携を図りながら



要請書を提出する下委員長(左)



女性委員会から8人が交渉参加



災害救助活動のリーダーを養成するボランティアサポートチーム養成講座が6



月7日に徳島市東消防署で開講され各構成組織から36人がエントリーした。



心肺蘇生の施し方やAEDの使用、担架搬送訓練を体験

ボランティアサポートチーム養成講座

# 災害緊急時の対応を学習

## 実践しながらの訓練で体得

災害救助活動のリーダーを養成するボランティアサポートチーム養成講座が6月7日に徳島市東消防署で開講され各構成組織から36人がエントリーした。開講式では河村連合徳島会長から「徳島においては南海地震が、今後30年以内に50%を超える確率で発生すると言われていて、災害予防や災害発生時の対策、そして災害時の心構え、ボランティアサポートチームによる人材育成と防災協力の体制の確立について、一掃の充実を図っていききたい」とあいさつした。

続いて第1講座の一般救命講習が行われ、心肺蘇生法やAEDの使い方などについて、消防署員から説明を受けた後、グループに分かれ、訓練用の人形を使い、実践しながらの人工呼吸・蘇生訓練を行った。



三角巾を使った止血法やロープワークなども訓練

第2講座は、6月21日に同場所で行われ、第1講座の学習を踏まえたステップ講座で、日常生活や緊急時にも利用できる三角巾を使用する止血法や骨折時の固定の仕方、ロープワーク（まき結び、もやい結び）などを訓練した。受講生は、「三角巾やロープワークの難解さに悪戦苦闘しながらも、消防署員の指導と参加者間で教え合いながら体得。また毛布や衣服を使った担架搬送訓練も学習した。」



研修には各構成組織の女性・青年組員76人が参加



委員長(写真右)に選出された市瀬幸さん(自治労阿南市職労連)

# 南部地協女性委員会が発足

## 男女平等参画を推進

5月24日、徳島市のホテルクレメント徳島で、連合徳島南部地域協議会(以下、南部地協)女性委員会発足総会が開かれ、南部地協内各構成組織女性組員を中心に26人が参加した。総会は藤田女性委員会事務局長の司会で始まり、冒頭、小川女性委員会副委員長が、「連合徳島の第4次男女平等参画推進計画が、

昨年11月に開催された第25回定期大会で確認された。計画では、連合徳島内の各地域協議会において女性委員会を結成し活性化していくことが主要課題となっている。女性が働きやすい社会は男性にとっても安心して働くことができる社会である。発足総会を機に連合徳島女性委員会と連携を図りながら、男女平等参画を一層押し進めていきたい」とあいさつした。

議事では、①男女平等の社会づくりとあらゆる分野への参画。②女性にかかるとの政策・制度要求活動の推進。③女性運動の組織的な取り組み。④環境保護・平和への取り組みなど4点を軸とする運動方針を確認・決定した。

最後に働く女性のネットワークの拡充を図りながら、地域に根ざした活動を進め、社会全体で男女平等参画を推進していくとする総会宣言を全体で確認し、発足総会を終了した。



運動方針を熱心に聞き入る参加者

### 女性・青年委員会

## 女性青年で合同研修会

### 労組の必要性を学ぶ

5月24日、徳島市のホテルクレメント徳島で連合徳島女性委員会・青年委員会の合同研修会を開き各構成組織の女性・青年組員78人が参加した。

冒頭、森本連合徳島事務局長が中小の春闘情勢を報告したうえで「格差社会は依然と続いている。暮らしの底上げ実現に向け共に頑張っていこう」とあいさつ。また「本研修会は次世代の労働運動を担う女性・青年組員の研修会である。学んだことを職場・地域に持ち帰り活かしていこう」と述べた。

研修会には、全国一般の原田委員長を招き「労働組合と私」と題した講演を受けた。原田委員長は自らの職場で労働組合を結成した経緯や経営側から出された会社閉鎖問題などの合理化提案を受けて闘ってきた取り組みを詳しく報告し、仲間づくりの大切さと労働組合の必要性を説明した。参加者からは「仲間と連携することの重要性が身にしみて分かった」「困難な闘いもあきらめず粘り強く取り組んでいく必要性を痛感した」などの声が出された。

国会活動を展開してきた苦闘や裏話を披露したうえで、「政権によって社会の進み方が違うが、国が変わり社会が変わるのではなく、社会が変わりやると国会が変わる。女性の果たす役割は大きい」と締めくくった。

研修会には各構成組織の女性・青年組員76人が参加